

# 木本小だより

令和3年度 第9号  
2021年10月29日発行

## 「令和3年度全国学力・学習状況調査」の結果分析と今後の取組について

本年5月27日（木）6年生で実施された「全国学力・学習状況調査」の結果分析と今後の取組について、下記の通り報告させていただきます。この調査は「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらにそのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証サイクルを確立する」ことを目的にしています。

（「令和3年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領（文科省）」より）

### 1. 教科に関する調査結果について

熊野市の小学校の調査結果は、先日公表された通り、平均正答率については、全国・県平均と比べて2教科とも下回っています。木本小学校において、個々の学習状況を見ると2教科とも比較的よくできており、全国・県・市の平均正答率を超える児童もいました。

### 2. 教科別の課題分析（強み、課題、対策）

#### （1）国語

##### 強み

- ・ 最後の問題まで、粘り強く取り組むことができた。
- ・ 漢字の書きがたいへんよくできていた。（原因・転がる・積むを漢字で書く。）
- ・ 日頃のスピーチの練習を活かし、問題を解答できている。
- ・ 粘り強く、文章を書こうとする姿勢がある。

##### 課題

- ・ 中心となる語や文を見つけて、要約することができていない。
- ・ 文章と図表とを結びつけて必要な情報を見つけることができていない。
- ・ 何を問われているかの理解が不十分なところがある。
- ・ 文の主語や修飾語の理解が難しい。

#### （対策：これからどうしていくか）

- 読書をしたときに、読むだけでなく、その本のおすすめのところを書いてみる。
  - ① 印象に残ったところを書き出して、自分がどう感じたかを書いていく。
  - ② 普段の読書の時に簡単な課題を与え、読んだ後に課題について書いてみる。
- 授業の「振り返り」の中で、重要な言葉を提示し、まとめる活動を取り入れる。
- 正答率の低かった問題を検討することで、どこでつまづいているかを分析し、その単元（学年を超えることもある。）に戻って復習をする。また、その単元を学校全体で共有し、その学年を担当した時、その単元を学習するとき大切なことを押さえる。

#### （2）算数

##### 強み

- ・ 日常生活を思い浮かべて示された場面をよく解釈して問題を解くことができています。
- ・ グラフの読み取りがよくできている。
- ・ 問題文を参考にして解答することができる。コツをつかめている。

##### 課題

- ・ 三角形の面積を求める公式について理解していない。（基本図形の面積の求め方）
- ・ 組み合わせた図形の構成の仕方をとらえて、面積の求め方や答えを記述することが苦手である。
- ・ 「8人に4Lのジュースを等しく分けます。1人分は何Lですか。」という問題を「 $8 \div 4$ 」と立式する。（整数） $\div$ （整数）の割り算では、割られる数の方が割る数より大きくなると考えて

しまっている。

**(対策：これからどうしていくか)**

- 単純な読み取り以外の課題にも取り組んでいく。
- 学年に合わせ、自分の考えをノートに記述させる取組を増やしていく。また、その時、条件を満たす文章表記をさせていく。
- 正答率の低かった問題を検討することで、どこでつまづいているかを分析し、その単元（学年を超えることもある。）に戻って復習をする。また、その単元を学校全体で共有し、その学年を担当した時、その単元を学習するときに大切なことを押さえる。

**3. 児童生徒質問紙の特徴的な傾向**

**質問に対して、肯定的な回答をしている児童が多い項目（長所・強み）**

**「当てはまる」と「どちらかと言えば、当てはまる」の回答をする児童が多い項目**

（母数が少ないので、全国平均との比較はできませんでした）

- 将来の夢や目標を持っていますか。
  - 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。
  - いじめは、どんな理由があってもいけないと思いますか。
  - 学習の中でコンピューターなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。
  - 5年生までに受けた授業は、自分たちにあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。
  - 友だちと話し合う時、友だちの話や意見を最後で聞くことができますか。
  - 学習した内容について、分かった点やよくわからなかった点を見直し次の学習につなげることができていますか。
- ※ 将来に向け明るい展望があります。
- ※ 学んだことを実生活に役立てようとする姿勢がうかがえます。

**質問に対して、否定的な回答をしている児童が多い項目（短所・弱み）**

**「当てはまらない」と「どちらかと言えば、当てはまらない」の回答をする児童が多い項目**

（母数が少ないので、全国平均との比較はできませんでした）

「学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。」「学校の授業時間以外に普段、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。」という質問の回答から家庭での学習時間が少ないことが分かります。また、ここにはこの質問はありませんが、1学期末の生活アンケートで、「1日どれくらいテレビ・ゲーム・インターネットをしますか」という質問に、3時間以上と答えた割合が63%ということからもわかるように家庭での学習時間、生活習慣が大きな課題となっています。

また、「携帯電話やスマホ、コンピューターの使い方について、家の人と約束したことを守っているか。」という質問に「持っているが、約束はない。」と多くの子どもが答えています。

**学校の教育活動について問う、「学校質問紙」の回答と児童の回答が一致しなかった1例**

様々な場面で子どもたちを「褒め」、学習の場面でも、子どもたち一人ひとりの学習内容の定着状況を把握しながら、子どもたちが主体的に取り組める授業づくりや、自学ノートの取組などを進めるとともに、一人ひとりのよい点や可能性を見つけ評価する取組を行ってきました。しかし、残念ながら子どもたちの回答からはその成果を読み取ることはできませんでした。

学校としましては、今回の結果分析をふまえ、よりいっそう①基礎学力の定着 ②わかりやすい授業の展開 ③家庭学習など学習習慣の定着に取り組む、子どもたちの学力の向上に努めたいと考えています。また、今後も、様々な取組を一人ひとりの児童に寄り添いながら進め、「褒める、認める、励ます」などを通して、自尊感情の醸成に努めたいと思います。

つきましては、保護者・地域の皆様におかれましては、子どもたちの成長にむけてご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。なお、ご意見やご質問等がございましたら、ご遠慮なく学校までご連絡ください。